

令和3年度 学校自己評価システムシート（県立三郷特別支援学校）

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 仲間を認め合い、絆を深めながら楽しく学べる学校 家庭や地域と連携し、豊かな体験を通して児童生徒一人一人が自ら学べる学校 共生社会の実現を目指し、地域のセンターとしての役割を果たす学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒が、主体的に学習に取り組む力を育む専門性の高い授業の実践 保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 児童生徒が安心して学校生活を送るための学習環境及び施設設備の充実
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価（月日現在）		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
1	<p>○児童生徒の障害特性を把握し、個々に応じた指導内容・授業づくりを進める必要がある。保護者とも共通理解を図り、教育支援プランに基づいた教育活動の充実を図る。</p> <p>○外部専門家や特別非常勤講師との連携を進め、個々の教育的ニーズに応じた教育が実施できるよう教員の指導力の向上を目指す。さらに、外部専門家を活用した研修を充実させ、教員の専門性の向上につなげる。</p>	<p>・障害特性を踏まえ、児童生徒一人一人に合った授業を展開する</p>	<p>①保護者と合意形成を図り障害特性を踏まえた教育支援プランA・Bを作成し、教育活動を行う。（継続）</p> <p>②担任間の引継ぎや情報共有を適確に行うとともに、児童生徒の興味関心に合った授業づくりを行う。</p> <p>③外部専門家や特別非常勤講師の指導助言を日頃の指導に活かすとともに、より充実した教員研修を実施する。</p>	<p>①教育支援プランが指導、支援に活かされ、個に応じた指導、支援が実施できたか。</p> <p>②チェックシートに基づいた引継ぎを行うことができたか。また、児童生徒が主体的に取り組む「わかる・できる・たのしい」授業が実践できたか。</p> <p>③外部専門家、特別非常勤講師を有効活用できたか。また、そのことをそれぞれの授業に活かすことができたか。 ※保護者アンケートで満足度の確認</p>	<p>①教育支援プランを活用した個に応じた授業を行い、様々な制約の中でも教育活動を充実させた。保護者アンケートでは95.2%の保護者が「子どもをよく見て計画を立ててくれている」と回答している。</p> <p>②引継ぎチェックシートを活用し、漏れなく適切な引継ぎを行った。保護者アンケートでは「興味関心を持って授業に取り組めたか」について94.7%の保護者から肯定的な評価をいただいた。</p> <p>③外部専門家と連携し、延べ141名の児童生徒を対象に外部専門家等の助言を活かした支援を行い、一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を行った。（12月14日現在）</p>	A	<p>○教育支援プランが指導、支援に活かされ、個に応じた指導、支援ができた。引き続き、担任間や保護者との共通理解を深め、専門性の高い授業を充実させていく。</p> <p>○様々な課題を持った児童生徒が在籍しており、今後も外部専門家との連携が不可欠である。支援の連絡調整を適切に行い、学級担任のニーズに応じた指導・助言が受けられるよう連絡調整が必要である。</p>	<p>○アンケート内容は非常に高く評価されている。個に応じた支援と先生方の授業づくりに際しての様々な工夫によるものと思われる。</p> <p>○チェックシートを用いての引継ぎは視点の共有、意識化という点でもよい取り組みである。今後も、具体的かつ詳細な引継ぎを行って欲しい。</p> <p>○コロナ禍で外部専門家との連携は難しい面もあったと思うが、効果のある指導・支援が行われたのはよかったと思う。</p>
2	<p>○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、従来のような近隣との交流学习、授業参観、学校行事等を実施することには課題がある。感染予防を行いながら、いかに効果的な教育活動を実施していくかが課題である。</p> <p>○巡回相談や教育相談等の依頼は年々増加傾向にあり、ニーズに応じた支援を行う必要があるが、一方でコロナ感染防止のため、人との接触を減らさなければならない現状がある。いかに感染予防を行いながら関係機関との連携・協力を深め、地域のセンターとしての機能を高めていくかが課題である。</p>	<p>・保護者及び地域との連携強化と、センター機能の充実</p>	<p>①コロナ禍における工夫された活動を通して社会性を身に付けるとともに、人との関り、地域とのつながりを充実させる。</p> <p>②学校及び各分掌等からの情報発信を保護者専用サイトで積極的にを行い、本校の教育活動や特別支援教育に対する理解を進める。</p> <p>③コーディネーターを中心として、コロナ禍に相応しい方法により、相談支援や地域支援、支援籍学習の充実を図る。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症予防を行いながら学校行事や支援籍学習等を通じて地域と関わる事ができたか。</p> <p>②保護者専用サイトを活用した情報発信を行い、本校の教育活動や取り組みを知らせるとともに、情報提供を行うことができたか。</p> <p>③関係機関と連携し、個々に応じた支援が行えたか。また、早期解決へ向けた取り組みが実施できたか。</p>	<p>①支援籍学習については31名の児童生徒が間接の交流等を行った。また、学部ごとに校外学習等の校外での行事を行い、人や地域と関わりを持つことができた。</p> <p>②保護者への情報発信は学校ホームページ及び一斉メール送信を中心に行った。特に保護者通知については、保護者宛メールにより一斉送信することで確実に保護者まで届けることができた。</p> <p>③校内支援委員会を4回（12月14日現在）実施し、学校全体で見守りや支援が必要な児童生徒について教職員間で共通理解を深め、必要に応じて関係機関と連携し迅速な対応を行った。</p>	B	<p>○支援籍学習、交流学习等、相手校との制約もあったが可能な範囲で実施した。今後も感染状況等を把握し、より充実した内容となるよう実施方法等を今まで以上に工夫し、活動内容や規模について検討していく。</p> <p>○情報化推進委員及び情報教育部を中心に動画配信について準備と配信を行った。行事だけでなく、授業動画等も含め、検討していく。</p> <p>○校内支援委員会が機能し、外部機関と連携して対応する支援体制が定着してきている。引き続き校内支援委員会を中心に情報を共有し、組織的に対応していく。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の流行により、地域との関りが難しくなっている中、間接交流を取り入れるなど安全に配慮したうえでの交流を実施できたことはよかった。</p> <p>○保護者への情報発信は適切に行えたが、動画配信等での改善意見が多く見られた。一般公開できる動画保護者向けにも地域一般向けにもよいと思うので今後の検討課題として欲しい。</p> <p>○校内支援が充実してきている。今後も関係機関との連携を大切にし、組織としての情報の共有化を図って欲しい。</p>
3	<p>○新型コロナウイルスの感染防止を行いながら、児童生徒の学びを止めることなく継続した教育活動を行っていくことが必要である。</p> <p>○近年多発している災害に備えるため、保護者との連携は重要である。感染防止対策を行い、緊急事態に備え、様々な状況を想定した訓練や研修に取り組む必要がある。</p>	<p>・緊急時の対応や安心・安全な学習環境づくりの推進</p>	<p>①県教委、保健所等の関係機関や保護者と連携しながら適切に対応する。</p> <p>②ICT機器の活用研修を行うとともに、児童生徒の実態に応じてICT機器を活用した教育支援の充実を図る。</p> <p>③PTAと連携し、計画的な備蓄品の購入・入替を行うとともに、災害を想定した訓練や研修を行う。また、緊急時に備えるため、一斉メール送信システムの全員登録を推進する。</p>	<p>①校内における新型コロナウイルス感染予防対策を行うとともに、陽性が判明された場合の初期対応、他機関との連携、情報の共有等を適切に行うことができたか。</p> <p>②保護者や地域のニーズを踏まえ、ICT機器を活用するとともに、計画的かつ適切な支援が実現できたか。</p> <p>③PTAと連携し、より実際に沿った災害の備えを行うことができたか。また、一斉メール送信システムの全員登録の推進を行うことができたか。</p>	<p>①新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するなど、安心安全な教育環境の整備に学校全体で取り組むことができた。保護者アンケートでは91.4%の保護者から本校の新型コロナ感染防止対策についての評価をいただいた。</p> <p>②小中学部の児童生徒全員に対し、一人一台のタブレット端末機を整備し、ICT機器を活用した学習ができる環境を整えた。また、校内研修の実施により教職員の活用能力を向上させ、児童生徒の実態に応じてICT機器を活用し、適切な支援を行うことができた。</p> <p>③新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら学部学年ごとの避難訓練を実施することができた。また、保護者に必要な情報について一斉メール送信システムを使って周知することができた。</p>	A	<p>○引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、児童生徒の感染防止を行っていく。</p> <p>○ICT機器を活用した研修が進んでいる。今後は様々な活用事例等を参考に教職員の活用能力を更に向上させ、適切なICT機器の活用により、学習の質を高めていく必要がある。</p> <p>○近年多発している様々な災害を想定し、自然災害に対する備えを計画的に実施する。</p>	<p>○保護者アンケートによる評価は高く、先生方が施行錯誤しながら適切な対応をされたことが伺える。</p> <p>○ITC機器を利用してのリモート授業が少しずつ進んでいる。特に表出言語が乏しい児童生徒にとっては代替コミュニケーションとして主体的な学びを実現できるのではないかと。</p> <p>○今後のPTAと連携し、自然災害に対する備えを充実して欲しい。</p>